

第1特集

つなぎまとめる 脆弱性骨折ケア

みつけてつなげ！脆弱性骨折の包括的統合的ケア

高齢化に伴い、大腿骨近位部骨折を含む脆弱性骨折を発症する患者は増加傾向にある。脆弱性骨折は、原発性および続発性の骨粗鬆症を原因とする軽微な外力によって生じる骨折で、高齢者の生活機能を著しく低下させ、生命予後の悪化をもたらす重大な疾患である。脆弱性骨折を生じる患者の多くは、慢性閉塞性肺疾患、慢性腎臓病、心不全、糖尿病、関節リウマチといった慢性疾患に加え、認知機能低下や視聴覚障害などを併存した高齢者である。各国の診療ガイドラインでは、高齢者総合機能評価(CGA)、老年症候群の予防、骨折リエゾンサービス(fracture liaison service : FLS)による二次性骨折予防からなるコマネジメントを含む集学的ケアが推奨されている。診療報酬でも「緊急整復固定加算」、「二次性骨折予防継続管理料」が2022年度に新設され、脆弱性骨折の多職種連携やFLSがわが国においても広がってきた。FLSにおいては、多疾患併存・機能低下・社会的背景が複雑に絡み合うなかで、多職種が連携し、切れ目のない包括的マネジメントを構築することが欠かせない。

本特集では、最新のエビデンスに加えて、近年公表された『FLSクリニカルスタンダード改訂版』や『骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2025年版』、アメリカホスピタリスト学会の『病院医療におけるコマネジメントプログラムの構築と維持』を踏まえて、FLSの診療の質を向上する取り組みを紹介するとともに、脆弱性骨折の包括的統合的ケアで困っている読者の悩みに答え、実臨床に役立つトピックを提供していただいた。

二次性骨折予防に取り組む読者の診療現場に生かす手がかりとなれば幸いである。

編集幹事

明石医療センター
総合内科

石丸直人